

め、さらに T1 強調画像にて高信号強度の嚢胞壁を確認した。CT 脳室撮影で嚢胞への造影剤移行は slow filling, delay clearance であった。9月26日嚢胞開放術施行し、症状は軽快した。組織学的には細胞成分の少ない結合組織よりなり、上衣細胞は認めず、くも膜嚢胞と診断した。

本疾患では CT 脳室撮影, MRI が、診断および病態像を確認する上で有用であった。

B-26) 中頭蓋窩くも膜嚢腫に嚢腫内出血と同側多発性慢性硬膜下血腫を合併した1手術例

瀬尾 弘志・近藤 礼 (鶴岡市立荘内病院) 脳神経外科  
八木 直幸 (脳神経外科)

中頭蓋窩くも膜嚢腫に慢性硬膜下血腫を合併することは古くから知られ、近年の CT の普及にともない、その報告例は増加しつつある。しかしながら、慢性硬膜下血腫がくも膜嚢腫の同側に多発性に出現した例、嚢腫内出血を合併した例はきわめて少なく、また開頭術が施行された例も少数である。

症例は11歳の女児で、軽微な頭部外傷を契機として、左中頭蓋窩くも膜嚢腫に嚢腫内出血と同側多発性の慢性硬膜下血腫を合併した一例を経験し、開頭術を施行した。本例の手術所見をもとに、中頭蓋窩くも膜嚢腫に慢性硬膜下血腫が合併する発現機序について、若干の考察を加え報告する。

B-27) 乳幼児慢性硬膜下血腫の臨床からみた発現機序

高橋 義男・堤 博 (北海道立小児総合保健センター) 脳神経外科  
端 和夫 (札幌医科大学) 脳神経外科

乳幼児慢性硬膜下血腫 (ICSH) は成人慢性硬膜下血腫 (ACSH) と異なる病態であることが推測されているが、その差異は明確ではない。演者らは、乳幼児硬膜下液貯留中、CT 値が20以上の59例を ICSH として、経時的 CT 観察を行なうとともに、ACSH と臨床所見を比較し、ICSH の発生病態を検討した。

〈結果と結論〉① 症状経過：受診前に、健診などで頭囲拡大、発達遅延などが指摘されていたのは64%であった。41%に周産期の明らかな既往歴を認めた。② CT 所見：a. 経時的 CT：初期像は硬膜下低吸収域で、それが低吸収域または比較的高吸収域で増加し、症状の出現、悪化を認めた。b. CECT：血腫内容の増強を認めることは少ない。c. CTCG：髄液循環不全を認める。

- ③ 内容液：血液成分は少なく、線溶亢進所見も低い。
- ④ 被膜の病理：炎症所見が乏しい。以上より、ICSH は出血により症状を出すのではなく、髄液の流入により症状を出し、ACSH の如き典型的 CSH 像はなく、ICSH は稀な疾患で、臨床上診断される多くの ICSH は水腫に属すると考えられた。

B-28) 脊髄誘発電位による脊髄髄内腫瘍の術中モニター

小柳 泉・岩崎 喜信 (北海道大学) 脳神経外科  
井須 豊彦・秋野 実  
今村 博幸・太田 穰  
蝶野 吉美・阿部 弘

脊髄刺激による脊髄誘発電位は短時間で安定した電位が得られるなど、術中モニターに適した特徴を備えている。我々は、この方法による脊髄誘発電位を脊髄髄内腫瘍の術中モニターとして使用してきたので、その有用性を報告する。対象は、ependymoma 5例、hemangioblastoma 2例、cavernous angioma+hematomyelia 1例の計8例である。手術は、6例が全摘出、2例が亜全摘である。脊髄誘発電位は、椎弓切除部位よりその上下の硬膜外腔へ双極カテーテル電極を挿入し、上行性電位を測定した。腫瘍摘出後の波形変化としては、I波の振幅増大が3例、不変が1例、I波の振幅低下が2例であった。このうちI波の振幅が増大した症例では術後の神経症状の回復は良好であり、脊髄誘発電位の変化は術後症状とある程度相関した。また、測定時間が短く再現性があるため手術操作の指標になり、術中モニターとして有用であった。

B-29) 脊髄空洞症に伴う成人 Chiari 奇形 一病態と治療—

高橋慎一郎・園部 真 (国立水戸病院) 脳神経外科  
甲州 啓二・藤井 康伸  
林 央周・野村 耕章

脊髄空洞症を合併した成人 Chiari 奇形5症例に対して外科的治療 (Foramen Magnum Decompression, S-S Shunt) をこころみ、術後の MRI 及び臨床経過を28ヶ月から40ヶ月 (平均33ヶ月) にわたって追跡調査した。結果は第1例 (32才男) は、FMD 後 syrinx の消失をみたが、症状 (syringomyelic) は改善しなかった。第2例 (25才女) は FMD 後 syrinx の消失はみなかったが、症状 (Chiari) の改善をみた。第3例 (20才男) は FMD 後 syrinx の消失と症状の改善をみた。第4例 (31才男) は FMD 後 syrinx の消失をみなかった。